

# Servas Japan Tohoku



## 支部ニュース

No. 91



1 受け入れ報告	
S.M. (仙台) . . . . .	1
S.T. (新潟) . . . . .	4
T.N. (福島) . . . . .	6
2 事務局から . . . . .	6

### TOHOKU

## 1. 受け入れ報告

### (1) 「仮入学」の制度をご存知ですか S.M.

私たちは40年の間、サーバス活動に参加してきました。当時と比較して、時の流れとはいえIT時代の超スピード化には戸惑う昨今です。

40年前、私たち家族は50代のハンガリーのご夫婦を最初のトラベラーとして迎えました。未知の体験に接することの喜びにこころおどる想いでした。彼らはサーバスのルールを超えて8日間もの滞在でした。8日間の滞在中で彼らは私たちに東欧の知識を与えてくれました。彼らから届いた航空便の封を切るときのワクワクした興奮を今でもはっきりと覚えています。40年間で650名以上のトラベラーを受け入れていますが、ハンガリーのご夫婦とはいまだに交流が続いています。



お別れ会で孫(9歳)が日本語でスピーチをしました

私たちの子どもはサーバスのトラベラーが常に家に滞在していた恵まれた環境にいました。そのような環境が影響してか、長女は16歳の時からオーストラリアの高校に留学

して、大学も、大学院もオーストラリアで勉強をしました。その後オーストラリアの男性と結婚し二人の子供の母親にもなりました。

現在ゴールドコーストのウイルソンリークに住む娘は二人のこどもたちに日本の文化、習慣、言語等を学んでほしいと強く願っていました。そんな折の2016年に、日本の公立小学校に「仮入学」の制度があることを知りました。子どものいじめ問題で揺れている現在の日本の学校ですが、外国に住む子供たちをクラスに受け入れてくれる勇気のある先生方がいたのです。「仮入学」の申請も教育委員会からの簡単な書類に住所氏名を書き、パスポートを持って教育委員会に行くだけのものでした。さらに嬉しいことに、給食費のみ払う必要がありますが、それ以外は全て無料なのです。

日本の教育現場は閉鎖的な所と長年思っていた私にはこの大きな前進にただただ感心しています。サーバスの会員の方にも日本の学校が外国籍の子どもにドアを広く開けてくれていることを知っていただきたいと思います。2020年から公立小学校3年生～6年生まで「グローバル化に対応した英語教育活動……」が実施と決まっていることも「仮入学」制度の改革の要因なのかもしれません。お陰で孫たちは2016年と2017年約3週間、仙台の小学校に通うという素晴らしい体験が出来ました。2018年にも日本の小学校で学ぶことを楽しみにしています、感謝!

## (2) 受け入れ報告

S.M.

平成19年7月15日～17日 佐賀県 M.N. 82歳

Nさんは仙台で開催された日本ユネスコ協会の国内会議に参加のため来仙されました。二日間の過密なスケジュールにも関わらず我が家に滞在をしてくださいました。Nさんは長きに渡って九州支部のまとめ役、また東アジア国内会議の会長を務められた方です。サーバス国際会議、東アジア会議には流暢な英語で、良き発言者として会議を盛り上げてくださいました。私は国際会議にほぼ毎回参加しましたから、Nさんとサーバスの未来を篤く語り合うのが楽しみでした。

仙台国際センターで開催のユネスコの会議が夕刻に終わった後、旅慣れているNさんは仙台の街を迷うことなく地下鉄・泉中央駅に無事に到着されました。この日の夕食には東北支部の会員として15年間、いろいろ尽力してくださったT.K.さんが来てくれました。2003年3月、Kさんは「Nさんのモンゴル行」に同行して貴重な体験をしています。この時の旅の目的は「モンゴルにサーバスを



Nさんの趣味はサイクリングです

設立する」といものでした。しかしながらこの話は設立までは行かなかったのですが、モンゴルに最初の日韓のサーバス会員が「小さな種を撒いてくれた」と私は確信しています。14年前の3月の厳寒のモンゴルの旅の体験談をNさんが持参してくださった写真集を見せていただきながら我々は大いに楽しみました。（私たち夫婦も二度モンゴルに行っていますがいずれも9月で極寒のモンゴルを知らないのです。）

その数年後、Nさんの知人のモンゴル女性がサーバス会員になってくれるという奇跡のようなことが起こりました。彼女はひとり、サーバス活動を今日まで忍耐強く続け、現在モンゴル・サーバス会員は7名となったそうです。2019年にはモンゴルで初めての東アジア会議の開催国になると聞いています。Nさんも参加の予定だそうです。東北支部の会員も2019年のモンゴル会議に参加していただきたいと私は切に願っています。以上

### (3) 受け入れ報告

S.M.

4月25日-27日 in 2017 イスラエル人 O 23歳の男性 T 22歳の女性



我が家に滞在してくれたイスラエルからのサーバス・トラベラーはなぜかとても多いです。兵役の義務が終わると、兵役期間の緊張、不安、束縛から解放されるためにも安全な国日本を旅することが必要だと言っていた若者たちのことばを思い出します。OとTの若いカップルもまた同じことを言っていました。

イスラエル人は日本人と同じアジア民族であるから、少し褐色の肌、黒い髪、背の高さなどにはいつも親近感を覚えます。しかしながら日本の文化、習慣とイスラエルのそれとはかなりの相違点があります。イスラエルは信仰上から豚肉を食べるのが禁止されています。兵役の義務(男性は3年間、女性は2年間)があり、言語はヘブル語です。私の失敗談としては夕食に豚汁を用意してしまったことでした。

今回の若いカップルは Kibbutz ・キブツと呼ばれる「イスラエルの集団農場」で生まれ、今もキブツで生活している人たちでした。中学校の社会科の授業でキブツのことは簡単に教わりましたが、長い年月が経っていますから、もう過去の物と思っていました。昔に比べてその数は減少傾向にあるがキブツはまだかなりの数が残っているそうです。キブツのことを一生懸命に説明してくれる若いカップルでしたが、残念ながらキブツの集団生活の全容はなかなか見えてきませんでした。

イスラエル人の名前は旧約聖書に登場する人の名前から取っているのだろうと私は思っていました。彼らの名前は違っていました。O という名前の男性の意味は「宝石のサファイヤ・sapphire」のヘブル語でした。女性の T もヘブル語で「早朝、葉の上にできる滴」の意味だそうで、子どもの幸せな人生を願う親の気持ちを想い、心が温かな気持ちになりました。

彼らは 1 ヶ月の日本滞在中、交通機関はレンタカーのみにして、スマホのお陰で迷うことなく快適な旅ができたと言っていました。これからはこんな旅をするサーバス・トラベラーが増えて来るのではないのでしょうか。以上

#### (4) 受け入れ報告

S.T.

名前：L.W.(女性)

国籍：アメリカ

年齢：34 歳

受入日：4 月 3～5 日

L さんからメールが届いたのは今年の 1 月下旬、アメリカからであった。中国からアメリカへ帰る途中に日本に来るというメールであった。予定では 4 月 3, 4 日である。新潟を選んだ理由は彼女の趣味が「ハイキング、温泉」で、それに都会があまり好きでないことが LOI に書かれていた。

4 月 3 日は羽田到着後新潟に直行したいという。夕方 7 時前に羽田到着、その後の入国手続きで 1 時間はかかる。ちょっと心配したが予定通り新幹線に乗り 10 時半過ぎに我が家に着いた。トラベラーは家内の実家にいつも滞在する。L さんは時間が遅いことを心配していた。L さんの名前は「月桂樹」で、それは「勝利」「栄冠」を意味する。姓は「ウィロビィ」と発音する。イギリス系の姓であるが、両親はハンガリー系であった。彼女は大柄の女性で、話し方はとても静かで、我々が想像するアメリカ人特有の快活さは見られなかった。会話の途中「I'm a Jew.」と言っていたのが心にひっかかった。サーバスでの旅行は今回で 3 回目であった。今回の旅行について聞いたらわずか 1 週間位 (!) の旅で、日本には 4 日しかない。我が家に滞在後松本に 1 泊、東京に戻りアメリカに帰るそうだ。あまりにもあわただしい日程である。日本は初めてで、京都や奈良には行けない。L さんはノースカロライナ州レスター出身で、グーグル検索したら彼女の家は周りが緑に囲まれた静かな環境にあった。彼女の趣味がハイキング、都会を嫌うのもっともなことだと思った。あれこれ話していたら 12 時近くになったので、家内と私は我々の家に帰った。

2 日目、朝食後トラベラーが来るとよく連れていく市内を一望できる「朱鷺メッセ」へ行く。たまたま晴れていて展望台からは佐渡が見えた。高い所から見ると新潟市も結構広い。昼はラーメンを食べる。スープを残さないことがマナーの一つだと言ったら彼女はすっか

りスープを飲んだ。そのあと護国神社へ連れていく。平日だったので閑散としていた。外国人には神社もお寺も一緒のようだ。本殿の中の式場はペンキを塗り替えたばかりの深紅であった。中には入れなかったが彼女は興味津々。本殿の反対側の通路の両側には多くの墓がある。第二次世界大戦で亡くなった人の墓があり、その他には戊辰戦争でなくなった人たちの墓も多くあった。午後からは温泉へ連れて行こうかと思ったが。彼女も疲れているようだし、家で休むことにした。それでも彼女は海を見たいという。彼女は我が家の犬（シバ犬）と一緒に海へ行った。松林を通って海まで家からは 25 分位である。ちょっとしたハイキングであったろう。

夕食には近くの回り寿司店行く。彼女は寿司店は初めてで盛んに写真を撮っていた。家に帰るとアメリカの母から電話があった。電話の最後に “I love you, mom.” とさりげなく言っていた。翌朝早く新幹線で松本に向かった。別れぎわに彼女は日本では別れるときにハグするかと聞かれた。イエス、と答えたら彼女はカ一杯ハグしてくれた。新潟では見れなかった桜を上野公園は満開である。公園の脇の不忍池はあまり観光客もいなくていい所だと教えてあげた。彼女が新潟を離れた週末に新潟では桜が満開になった。

## （5）受け入れ報告「エネルギーな F」

S.T.

名前：FL-N（女性）

国籍：フランス

年齢：62 歳

受入日：4 月 21～23 日

L さんから 17 日後フランスからのトラベラーを受け入れた。パリ在住である。2 か月の予定で日本を旅行していると言う。当初 1 か月は主人と一緒にだったが主人は早々とパリに帰り、あと 1 か月彼女は一人で日本を旅行する。小柄だが非常に行動力のある女性である。彼女は日本語を勉強しており、名刺にはフランス語の下にカタカナのふりがながついていた。

我が家に到着後前回同様家内と 3 人で寿司を食べに行った。新潟に来る前に回り寿司店へは行ったことがあり、落ち着いていた。家内も私も肉よりは魚が好きなのでこの寿司店にはよく食べにくる。週末だったので客は多かった。

彼女は国際通信会社の会計監査として勤務し、2 年前に退職している。年金のことを聞いたら公務員は月給の 7 割で民間だと 3 割という。彼女の年金は私の年金の約 2 倍である。サーバス歴 17 年の彼女の趣味の一つが旅行で、あちこち行っている。旅慣れているのも十分理解できる。新潟駅に着いてからグーグルマップで新潟の後で行く佐渡行き切符を買い歩いて佐渡汽船まで行ったそうである。徒歩だと駅からは 3, 40 分はかかる。

彼女の母は健在で、たまたまテレビでフランス映画「パリは燃えているか」が放映され

ており、お母さんは戦争中どうでしたかと聞いたら、第二次世界大戦のときはイタリアとの国境近く雪が3、4メートル積もる奥田舎に住んでいて、戦争のことは知らなかったそうである（！）。

Fが我が家にいたときは天候に恵まれ、そめいよしのは散っていたが、近くの松林の山桜はまだ十分見ることができた。パリのアパートの近くの公園にも桜は見られるそうだが、やはりなんといっても日本の風土に桜はピッタリである。

彼女は絶えず首に小さいたばこサイズ位のものをぶらさげていた。聞いてみたらそれは携帯用WiFiであった。これがあればどこでもパソコンが使える。2か月で日本円で1万4千と言っていた。帰国したら封筒に入れてポストに入れるだけだそうである。私は海外に行くときにパソコンが使えず、困ることがあるが、携帯用WiFiはとても便利である。彼女が佐渡へ向かう途中、船上からメールが送られてきた。ネットで調べたら日本では月額2～3千円からの料金である。私も今度海外に行くときには使ってみたいものである。

Fは佐渡で朱鷺を見たいと言っていた。運が良ければ飛んでいる朱鷺を見ることができる。佐渡の後は高山、そのあとは四国に行き、レンタカーで一周する。何とも行動力のあるフランス人女性であった。

## (6) 受け入れ報告

T.N.

- 1、名前：C.G. 男性（23歳）
- 2、国籍：Holland オランダ
- 3、宿泊期間：4月15日～16日（2泊3日）
- 4、経過と所見

昨年、拙宅に宿泊したWさんの友人。

オランダの旅行会社、TAO Japan SpecialistのLさんの紹介。

福島市の花見山を案内する。新潟市の高橋先生らと一緒に楽しい一日を過ごす。

アムステルダムのキュウケンホフ公園よりきれい、と言ってくれる。

## 2 事務局から

支部ニュース編集担当 N.C.

みなさん、ご無沙汰しております。マレーシアで約二年間 JICA 青年海外協力隊としてボランティア活動をしてこの三月に帰国した N.C. と申します。この度、支部ニュースの編集係を担当させていただくことになりました。不慣れで発行が遅れまして大変申し訳ございません。

さて、この支部ニュースには皆様の受け入れ報告やステイ体験報告などを投稿していただいておりますが、身近な国際交流がありましたら、是非お寄せいただきたいと思います。

今回は、宮城県白石市在住の T さんの企画により実施された語学交流会についてご紹介いたします。

2017年7月2日に、宮城県白石市中央公民館にて、参加者の海外での体験などを共有する言語交流会というものを実施いたしました。目的は、地元の若者に国際協力、国際理解の面白さに気づいてもらうこと、サーバスにも興味を持ってもらうことなどです。企画者の T さんが白石市の社会福祉協議会などにかけてくださり、市内の学校にチラシを掲示してもらったりしました。その結果、参加者は、写真の



右から企画者の T さん、C (報告者)、アメリカから英語の ALT として白石市に住んでいる K さん、T さんの奥様、福島から参加の O さん、O さんをお誘いいただいた福島県サーバスの N さんとなりました。三時間ほどの交流会でしたが、話題は途切れることはありませんでした。海外に興味を持ったきっかけ、海外での仕事の様子、アメリカのダンス、はては居合道の導入部分まで共有し合う楽しい時間となりました。以下に K さんからいただいた参加しての感想を原文と日本語訳で開催いたします。今後も是非身近な国際交流がありましたら写真などとともに投稿いただきますようお願い申し上げます。それでは、また次回のサーバス東北支部ニュースでお会いしましょう！

I attended my first SERVAS meeting in my small town of Shiroishi Miyagi. From the young and the busy, to the old and the experienced, there were many different lenses through which other people shared their opinions and ideas. The conversation was always pleasant and fascinating, never once stagnant. To share their own experiences, many people brought tools to show others how to train in their martial arts style, or pictures of their time working in another country. Even fascinating revelations about how our brains adapt to a second language was talked about. While I was new, everyone was kind to me and did not exude me from their thoughtful conversations.

In America, sometimes long meetings tire people to the point where they return home feeling drained of all energy. Even for an introvert like me, this SERVAS meeting left me with feelings of accomplishment and the happiness one has after making new friends. I also left feeling thoughtful and more likely to stop and smell a Japanese flower on my way home. Our meeting really made me stop and think what it meant to thrive in another culture and to observe what was different in each (for better or for worse).

I would definitely recommend attending a SERVAS meeting, even for a newcomer whose Japanese is not well developed. People were extremely considerate of my level and if I did not understand something or lost track of the flow, someone would be there to translate for me. A little bit of Japanese helped me make new acquaintances easily, but the most important skill was the ability to listen and be open minded.

Language aside, the context was not only interesting, but rare for a foreign person to hear such in depth examinations about different cultures. The different expertise each person learned in their field of study, whether it was introductory lesson on a person's own uncommon martial art or the everyday routines of a Malaysian river commute, left a deep impression within me. The small group setting made it comfortable for people to feel relaxed and at home without the pressure a seminar-styled talk would bring.

For those who worry about what to present to others, their fears are ungrounded. Even pictures of a hometown or a dance one learned in their high school years (yes, I taught Cotton-Eyed-Joe at my first meeting!) is something, many people would find interesting! The things that may seem familiar or common to you may actually be region specific rarities!

In all, it was one of my favorite community activities I have done in my Japanese town. To those who love to learn new things, this would be a perfect opportunity! I am excited for our next meeting (a phrase this introvert rarely says) and I am definitely joining SERVAS for more!

私の住む宮城県の小さな街、白石市で初めての **SERVAS** ミーティングに出席しました。若く活発な人からご年配で経験豊かな人まで、多くの異なる見方があり、それを通して他の人々が意見やアイデアを共有しました。この時の会話はずっと楽しく魅力的で、決して留まることを知りませんでした。多くの人はそれぞれの経験を共有するために、武道スタイルでトレーニングする方法を紹介するための道具や、他の国で働いていた際の写真を見せるための写真を持ってきていました。私たちの脳が第二言語にどのように適応するかについて興味深い発見についてまでも語りました。私が初めて参加したにもかかわらず、みんなが私に親切で、思慮深いお話から私をあぶれ出すということはしませんでした。

アメリカでは、長時間のミーティングの後では、帰宅するとすべてのエネルギーを使い果たしたように疲れ切ってしまうことがあります。私のような内向的な人にも、今回の **SERVAS** ミーティングは、新しい友達を作った達成感と幸福感を与えてくれました。私はまた、思慮深い気持ちになり、家に帰る途中で歩みを止め、日本の花の香りをかぎたいとまで思うようになりました。私たちの会合のおかげで、自分の慣れ親しんだ文化とは別の文化の中で成功したり、両者の文化の何が違っているか（良かれ悪しかれ）じっくり見た



りすることはどういう意味合いがあったのかを、私は本当に立ち止り考えました。

日本語がまだうまく話せない新顔さんにも、SERVAS ミーティングに参加することをお勧めします。参加者たちは私の日本語のレベルを非常に気にかけてくれていました。そして、もし私が何かを理解していなかったり、話の筋を見失ってしまったりしたら、誰かが私のために英語に翻訳してくれます。ほんの少し日本語を話せることで私が新しい知り合いを容易に作ることはできました。しかし、最も重要なスキルは、耳を傾けるということと、新しい考えに寛容であることでした。

言葉的な問題はさておき、話の内容は単に興味深いということだけではなくて、外国人にとって、これほどまでに異なる文化について徹底的に検討しているのを聞くのはまれです。自分の研究分野で学んださまざまな専門知識は、珍しい武道を紹介する導入編のレッスンであっても、マレーシアの川を渡って通勤するという日々の習慣であっても、私の中に深く印象に残りました。小人数であることで、セミナースタイルの講演がもたらすような緊張感もなく、参加者はリラックスしてアットホームに快適に過ごすことができました。

他の参加者に何のプレゼンテーションをするのか心配している人のために一言言っておくと、何も恐れることはありません。故郷の写真や高校時代に学んだ踊りさえ（私などは最初のミーティングで **Cotton-Eyed-Joe** を教えました！）、多くの人がとても興味をもってくれるでしょう！あなたにはおなじみで当然のようなことにも、実はあなたの地域特有のものであり、めずらしいものかもしれません！

全体的に、この会合は、私が日本の町でやってきたコミュニティ活動の中でもお気に入りのひとつでした。新しいものを学ぶのが好きな人には、これは完璧な機会になるでしょう！私は次回のミーティングに期待しています（私のような内向的な人物がめったに言わない言い回しです）。そして、私はきっと SERVAS にもっと参加します！